



〒892-0841
鹿兒島市照国町13-42
カトリック鹿兒島司教区
電話099 (226) 5100
振込口座 02030-2-8359
編集発行 教区広報部
1部60円年間千共1100円



洗礼の恵みに気づき、それを生きよう(8)

2024年 年間目標

鹿兒島教区司教 中野 裕 明

教区の皆さま、お元気で
しょうか。今回はイエスの
次の言葉についてお話しし
ます。

「私に向かって、『主
よ、主よ』と言う者が皆、
天の国に入るわけではな
い。天におられる私の父の
御心を行う者が、入るので
ある。」(マタイ7・21)

ここで言われている「主
よ、主よ」と言う人とは、
洗礼を受けた人のことを指
しています。そうすると、
洗礼を受けただけでは、天
の国には入れないのだとい
うこととなります。この意
味について少し黙想してみ
ます。

「主よ、主よ」と言っ
て、私たちは神さまにいろ

んな願い事をします。それ
は、基本的に神を信頼して
いるからです。このことは
悪いことではありません
が、根本的に自分の善だけ
を願っていることになりか
ねません。

人祖アダムとエワの罪
(命の与え主である神との
縁が断たれている状態)を
持つ人間は、イエス・キリ
ストの十字架での死によ
つてその罪を贖われ、復活
の主イエスから送られる聖
霊によって神の命を得たの
です。この神の命を得るこ
とを「天の国に入る」と言
います。

従って、「天におられる
父の御心を行う者」とは、
厳密に言えば、イエス・キ

キリスト教伝来記念祭

日時：8月15日 (木)
場所：鹿兒島カテドラル・ザビエ
ル記念聖堂

内容
・ミサ
(中野裕明司教司式) 17時
・懇親会 18時30分
※16時から「ゆるしの秘跡」にあ
ずかることができます。

聖母被昇天、聖フランシスコ・
ザビエルの鹿兒島上陸、平和旬間
の締めくくり(終戦記念日)に平
和のために皆でミサにあずかり、
祈りをささげましょう。

リストの事ですが、このイ
エス・キリストを信じて、
イエスのような生き方をす

教区主催でインド・ゴア巡礼

10年に1度の聖ザビエルの聖遺物崇敬

中野裕明司教は10年に1
度、聖フランシスコ・ザビ
エルの聖遺物(ご遺体)が
公開(2024年11月21日
〜2025年1月5日)さ
れるのを機会に、教区主催
で「インド・ゴア巡礼の
旅」の実施を決め、以下の
ように内容等を発表した。
旅行実施は大阪市の株式会
社トラベルサライ(TEL06
|6232|3012)。

巡礼期間は12月10日
(火)〜12月15日(日)
で、旅行代金34万6千円
(福岡空港発着・添乗員同
行・全食事付)となっております。

但し、燃油サーチャー
ジ、空港税、査証料・代行
手数料等合計約6万1千円
が別途必要になる。また1
人部屋希望の際は5万5千
円の追加料金が発生する。
募集人数は20人(最少催
行人数15人)で、最初の
申込締切は9月8日
(日)、最終締切は10月31
日(木)となっている。大

る者だけが「天の国に入
る、すなわち救われる」と
いうことになりました。
ところで、神を信じ、神
を信頼して生きるとはどう
いう生き方なのでしょう
か。

私たちの身体は、常に新
陳代謝を繰り返していま
す。それは2兆個とも言わ

- ・ まかな旅程は以下の通り。
12月10日(火) 福岡空港
からムンバイへ。
12月11日(水) ムンバイ
〜パナジ(ゴア州)。
12月12日(木) パナジ
〜オールドゴア観光(聖ザ
ビエルの聖遺物崇敬)。
12月13日(金) パナジ
〜ムンバイへ。
12月14日(土) ムンバイ

司教講話で学習

7月の教区司祭会

7月9日(火) 午前11時
から12時半まで、教区本部
2階会議室で教区司祭会が
開催された。参加者は現地
参加13人、オンライン参加
6人の合計19人。

事務局からの報告の後、
中野裕明司教による「説教
について(使徒的勧告『福
音の喜び』を手がかり
に)」とのテーマで講話、

れる細胞が体内で生と死を
繰り返している、という意
味です。
ところで、私たちが受け
た洗礼は1回限りです。洗
礼証明書が存在することに
で、信者の証にはなりま
す。確かにこの世では、1
度何かの資格が得られれ
ば、それは生涯有効とみな
されますが、この洗礼証明
書は、生きておられる神の
前では意味を成しません。
人間が生きているという
ことは新陳代謝を繰り返す
ことであるし、「天におら
れる私の父の御心を行う」
ことが求められているので
す。聖パウロは次のように語

観光。
12月15日(日) ムンバイ
から福岡空港へ。
問合せ・申込先は、カト
リック鹿兒島教区本部事務
局まで。TEL099 (22
6) 5100、FAX099
(225) 0440、以下
のメールでも受けつける。
kagoxavi@po.synapse.ne.jp
中野司教はこの機会に多
くの信者が参加してくれ
ることを期待している。尚、
詳細・申込書はすでに各小
教区に送付されている。

7月9日(火) 午前11時
から12時半まで、教区本部
2階会議室で教区司祭会が
開催された。参加者は現地
参加13人、オンライン参加
6人の合計19人。
事務局からの報告の後、
中野裕明司教による「説教
について(使徒的勧告『福
音の喜び』を手がかり
に)」とのテーマで講話、

ります。
「私たちの内の古い人が
キリストと共に十字架につ
けられたのは、罪の体が無
力にされて、私たちがも
や罪の奴隷にならないため
であるということ」を、私
たちは知っています。(中
略) 私たちは、キリストと
共に死んだのなら、キリス
トと共に生きることにもな
ると信じます。」(ローマ
書6・6〜8)



6世は使徒的勧告『福音宣
教(エヴァンジェリイ・ヌ
ンチアンデイ)』を出され
た。Evangelii Nuntiandi
(エヴァンジェリイ・ヌンチ
アンデイ)は「福音をのべ
伝える」の意味だが、訳と
して長すぎるので、日本語
訳は、①福音宣教と②福音
化に分けて書かれている。

①福音宣教は、教会に來た
人に公教要理を教え、洗礼
を授けること。②福音化
は、①で洗礼を受けた人が
よい知らせを人類に伝える
ことと理解されることが多
い。①と②はそれぞれを分
離して捉えるのではなく、

「天におられるわたした
ちの父よ、(中略)みここ
ろが天に行われるとおり地
にも行われますように」
8月15日は「太平洋戦争
終結の日」であり、「聖フ
ランシスコ・ザビエルによ
る日本へのキリスト教伝
来」の日であり、「聖母被
昇天の祭日」でもありま
す。

このように三つの歴史的
出来事が一日に集中するの
はまれなことです。これら
の出来事において、「天の
父の御心」が実現した日
であることを感謝し、世界の
紛争地に1日も早く平和が
実現するように祈りましょ
う。



重久知司助祭帰天

まず①があつて②が可能に
なるという秩序の中で理解
することが大切である。
その後、希望者は会議室
に残り、普段感じているこ
とを分かち合いながら共に
昼食を取った。
2020年6月に助祭候
補者となった重久さんは、
2021年9月26日に徳之
島3人目の終身助祭とな
り、司祭たちの助け手とな
って活躍していた。
その重久助祭の追悼ミサ
は、12月3日(火) 午前10
時30分から鹿兒島カテド
ラル・ザビエル教会でささげ
られる。

骨を読む II 科学から見た「聖者」

シドゥッテイ神父の最後のメッセージ

屋久島でシドゥッテイ神父の功績を記念するための「記念館」建設などに尽力している作家・古居智子さんが活動の一日を報告してくれたので紹介したい。

国立科学博物館人類研究部の坂上和弘先生を招いて講演会を開催しました。

去る5月19日(日)午後

1時から3時、屋久島環境文化村レクチャー室にて、シドゥッテイ神父復顔像を囲んで講演会が開催されました。鹿児島県の事業「西洋文化を広めたシドゥッテイの功績等普及啓発事業」の一環として、委託を受けたNPO法人やくしま未来工房(理事長・古居智子)が開催したものです。

熊毛支庁屋久島事務所長 鮫島典治氏のご挨拶、動画「シドゥッテイの生涯」、古居智子の「シドゥッテイ来日の背景説明」の後に、国立科学博物館人類研究部の坂上和弘先生に「骨を読む! シドゥッテイ神父の最後のメッセージ」の演題で約1時間、お話しいただきました。

2014年夏、没後300年というタイミングで江戸切支丹屋敷跡から発掘されたシドゥッテイ神父の遺骨について、発掘から分析、DNA解析、復顔像作製に至るまでの骨に刻まれた情報を読み解いていく過程の話は、大変、興味深いものでした。

特に心に残ったのは、シドゥッテイ神父のご遺体が通常の江戸時代時代の葬式とは異なり、飾り金具の付いた木製の長持の中で体を伸展させた状態(キリスト教の葬式)で埋葬されていたという話でした。切支丹屋敷に幽閉されていたにもかかわらず、屋敷内の役人

たちからは敬われ、ある種の

しかつたという検証結果にも、ローマを出てから11年、さまざまな辛苦を経験されたことを実感させられました。

当日の来場者は約60人。質疑応答では参加者から質問がたくさんなされました。「とても面白かった」

配慮がなされていたという事実に、神父の人格を彷彿とさせられました。また、同年齢の方と比べて、歯の摩耗が著

今年度の支援先など決める

カリタス 鹿児島

カリタス鹿児島では5月13日(月)、教区本部で今年度最初の会議を開き、昨年度会計報告をまとめるとともに今年度の支援地について決定し、6月7日(金)付けで送金した。

支援先はウクライナの

カリタス鹿児島決算 (2023年4月1日~2024年3月31日)

支出の部	金額	備考(送り先)	収入の部	金額
ウクライナ支援	300,000	カノッサ会	カリタス鹿児島	872,063
ウクライナ支援	300,000	レデ女子会	外国語ミサ献金	379,352
トルコ南部地震	400,000	カリタスジャパン	ウクライナ支援募金	775,191
のと地震	1,000,000	名古屋教区	ウクライナ支援募金	42,216
			預金利息	55
次年度繰越金	6,660,971		前年度繰越金	6,592,094
合計	8,660,971		合計	8,660,971

このたびは、カリタス鹿児島を通じて多額のご寄付を賜り、まことにありがとうございます。数日前、本会の日本の姉妹から皆様からの100万円という多額のご寄付を、ウクライナの人々の支援のために送っていただきました。ウクライナでは2年半にわたって残忍な戦争が続いており、多くの若者や老人の命が奪われ続けています。現段階では戦争によって精神的、感情的、肉体的な疲弊に苛まれています。

親愛なる司教様、そして鹿児島教区の信者の皆さんの温かいご支援はウクライナの人々にとつてなくてはならないものです。支援金は食料品、医薬品、包帯など最も必要と思われる物に使われま

「期待以上に楽しく学ぶことができました」 「ロマンを感じた」 「このような出来事が屋久島から始まったなんて素晴らしいと思った」 「映画化して欲しい」 「シドゥッテイ記念館の設立が楽しみだ」 などの皆さんの称賛の音がアンケイト用紙にも記入されていました。

講演会の内容は、当法人のホームページでご紹介する予定です。(文責・古居智子)

また被災された方々の心の支えになるようウクライナのシスターたちは、愛する人を亡くされた家族、行方不明の方がいる家族のために集会を開いています。そのためにも私たちはこのお金を適切に使わせていただきます。皆様のご理解とご支援に改めて感謝いたします。

今年の5月に鹿児島でお会いできたことを心から感謝し、思い出しております。皆

イグナチオの霊操 ⑭

紫原教会主任司祭 貴島 丈弥

第二週 キリストの国 霊操の第二週は「キリストの国」の霊操全体の目的と目的とが

アルペは「キリストの道の中で霊操の目的とすべきところは、単なる理想や学問、法則などといった抽象的、あるいは観念的なものを追求してゆくことではなく、神のより大いなる光栄となるべき唯一の道をあらゆる可能性の中から最も正確に選び出し、その道を行ってゆくべき手法と方法とを、自己の現実に即してゆるぎなく究めつくしてゆくことにある。この具体的な

+KABAYAN SEKSIYON+

Kahalagahan ng Homiliya

Binigyang diin noong nabubuhay pa si Papa Benedicto 16 na dahil sa kahalagahan ng homiliya, ang kalidad (quality) ng mga homiliya ay kailangang mas pagbutihin (VD 59).

Ipinaliwanag niya:

Ang homiliya bilang bahagi ng liturhiya ay dapat na palalimin ang pagkakaunawa sa salita ng Diyos, upang ito ay magbunga sa buhay ng mga mananampalataya.

Ang homiliya bilang tagapaghatid ng mensahe ng Banal na Eskritura ay tumutulong sa mga mananampalataya na maunawaan na ang Salita ng Diyos ay buhay at kumikilos sa kanilang buhay.

Layunin ng homiliya: magbunsod na maunawaan ang misteryong ipinagdiriwang; bilang paanyaya sa pagsasagawa ng misyon; paghahanda sa sambayanan sa pagpapahayag ng pananam palataya (profession of faith), sa panalangin ng bayan at sa liturhiya o Panalangin ng Pasasalamat (Eucharistic Prayer).

Dahil sa kahalagahan ng Homiliya, ang mga nagsisidal sa Misa ay nabibigyan ng kaliwanagan kung paano isasabuhay ang mga salita ng Diyos na narinig at kung paano ito nagiging laman sa buhay ng mga mananampalataya sa araw-araw ng kanilang buhay. Ang pinakamahalaga ay dapat ipaunawa ng mabuti sa mga nakikinig na ito'y dapat isabuhay ng may katotohanan, sa gawa at salita.

Sana lahat ng mga nagpapahayag ng homiliya ay ibahagi din ang kanilang karanasan sa pagtanggap ng mga salita ng Diyos. Maging tunay na saksi sa presensiya ng Diyos.

Katesismo Tungko sa Liturhiya (Fr.Dino Orolfo)

様と一緒に祈り、コミュニケーションを取ることは、個人的な支えであり、良い分かち合いの機会となりました。また司教様と直接お会いし、ご経験や思いをお聞きできたのは貴重なことでした。この出会いにも心から感謝いたします。

司教様をはじめとする鹿児島教区の信者さんの助け

決定こそ、第二週は「キリストの国」の黙想のうちに行われるのである」と説明しています。この言葉の中にイグナチオのより大切な霊性を見つげることが出来ます。それは、より大いなる神の栄光のため、という概念です。AMDG (Ad Maiorem Dei Gloriam) 'Magis & the more」という言葉でも表現されます。より、という表現の中に、終わりがなく、限りなくという意味が含まれています。この霊性はイグナチオの霊操の中だけにどどまらず、キリスト者としての信仰

もそのようなものであるということが出来ます。第二週は「キリストの国」の黙想によって始められます。第一週で神の無償の愛を体験した霊操者は、自身を愛によって神に込めたいという熱意に燃えているはずで、その熱意を方向づけるためにも「キリストの国」の黙想によって、キリストの招きに完全に込められる決意にまで達します。

イグナチオは、パンプローナでの負傷によって身動きが取れない状態の時に、キリストについて、また聖人たちに「キリストの国」のために戦う決意を固めます。地上の国王の指揮のもとで兵士として戦っていたイグナチオは、地上のみならず、天地万物を創造し支配する永遠の王を主君として、その指揮のもとでの戦いは、地上の人間の乏しく醜い努力と想像力による不確かではなく、確実のための戦いではなく、確実に、すでに永遠の勝利を勝ち取った王の栄光のための戦いで、その報いは地上での一時の満足ですぐに朽ち果てるものとは違い、永遠に朽ちることのない報いであることに気付くのです。霊操者も、この王の、より大いなる栄光のために戦うため、彼の招きに応え続けていくのです。第二週で霊操者が見本とするのは聖母マリアの「これらのことをことごとく心に留めて、思いめぐら(ルカ2・19)「せるといふ姿勢です。第一週で行ったように記憶と知性と意志を働かせて神の神秘を観想し、「益を収める」ために重要な姿勢となります。

参考文献
・ペドロ・アルペ、キリストの道 第三巻 第二週
・キリストの国
・Miguel Ángel Florito, *Cercare e trovare la volontà di Dio*

能登半島の復興を願って

玉里教会でピアノコンサート

復活祭に洗礼を授かった古木美和さん(1・2班)の申し出で、『能登震災復興チャリティコンサート』が6月23日の主日のミサ後に玉里教会聖堂で開かれました。



(「ミッキーマウスマーチ」や「いのちのうた」など)復興の願いを込めて選曲され、またアレンジが施されていて、とても素敵な時間を過ごすことができました。

このコンサートには、ミサに参加した信者以外に、演奏者のご家族やそのご友人も教会を訪れてくださいました。ピアノで演奏された曲はどれも親しみやすく

るなど大変盛り上がり、最後にみんなで「ハッピーバースデー」を歌ってお誕生日も祝いました。(報告・また泉神父様から祭壇を

102回目の命日祭を挙行

ブイジュ神父を愛し愛された瀬留教会

7月7日(日)、ブイジュ神父没後102回目の命日祭が瀬留教会(申賢圭主任司祭)で行われました。この日はまずブイジュ神父が眠る集落の墓地を詣で、その後は瀬留教会敷地



教区内のベトナム人信者の皆さんと一緒に参拝の祈りを捧げませんか? 多くの方の参加を待ち

背景に演奏してくださいました。2人に感謝とさらに「次を期待しています」とのお言葉がありました。(報告・玉里教会通信員)

内にあるモニユメント「奄美大島歴代宣教師故人名碑」前で、島で宣教してくださった今は亡き司祭、修道者のために祈りをささげ



ました。その後のミサでの説教では地区長の内野洋平神父が「シノドスの祈りの分かち合い」について報告してください、信徒たちが島の共同体の再構築を聖霊の助けを祈りながら共に進めなければならぬことに気づかれました。

この日のブイジュ祭は、奄美のそれぞれの小教区において、共同体の在り方を見直す恵みになりました。ブイジュ神父についてフランス人宣教師ブイジュ神父(パリ外国宣教会)は、1903年に瀬留に着任し、1908年に教会を建設した。

この地をこよなく愛し、地域の人々の生活と文化の質の向上に尽力し、地元民にも愛された神父であったが、1922年に病に侵された。

体を心配する母親からも手紙で帰国を勧められたが、「すべてを神の摂理に委ねたい」とし、瀬留の地で54歳の生涯を終え、集落の共同墓地に埋葬されている。(瀬留教会・通信員)

ベトナムの聖母 Lavang祭

=8月11日(日)=

場所: かんまちあ 鹿兒島市浜町2-20

プログラム

- 16時30分 司教ミサ
- 18時 ロザリオの祈り 聖母Lavangの行列
- 19時 軽食

今までこのコラムは「旧約と新約は二つで一つの聖書」という観点から書いてきました。

10年以上にわたるこのコラムを終えるにあたって聖書を読むことについての金言とも言えるべきものを引用したいと思えます。

旧約聖書と新約聖書

《康由神父の聖書教室》75

したがって旧約聖書の意味も、神の啓示の充満であるイエススについて述べている新約聖書によってはじめて明らかにされるわけである。したがって旧約聖書は、新約聖書によって解釈

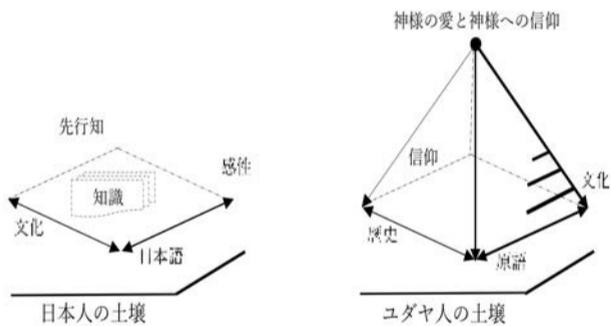
されるものとして読むべきである。ちょうどある小説を読む時に、その最後の頁を読んではじめて書物全体の意味が明らかになるのと同様に、聖書全体の意味も、新約



味を明らかにするための鍵なのである。

聖書は簡単に理解できるものはありません。しかし私たちが理解できないものにはありません。ユダヤ人の土壌に基づいて聖書を紐解くと単なる知識としてだけではなく、その根底に流れる神様の人間に対する愛、また神様を前提とした人間という存在と在り方を立体的に捉えることができるよう。

7P・ネメシエギ「キリスト教入門」南窓社、1993年、40頁。



会と催し 8月

- 1日(木) ボスコ神父叙階記念(2005年)
- 3日(土) アルフォンソ祭
- 4日(日) ルーシン神父命日(1994年)
- 6日(火) 主の変容
- 7日(水) 日本カトリック平和旬間・15日
- 7日(水) 中野アカデミー・教区本部・13時30分
- 8日(木) 小平卓保神父命日(2005年)
- 8日(木) 田原章神父霊名(聖ドミニコ)
- 10日(土) 末診旭神父霊名(聖ドミニコ)
- 10日(土) 聖ラウレンチオ助祭殉教者
- 11日(日) 聖書の分かち合い・教区本部・14時
- 11日(日) 年間第19主日
- 14日(水) 聖母の被昇天
- 15日(木) 聖母の被昇天
- 15日(木) キリスト教伝来記念祭・カテドラル・17時
- 18日(日) 年間第20主日
- 18日(日) 集会祭儀司会者養成講座・教区本部・15時
- 20日(火) 司祭評議会・教区本部・14時
- 20日(火) 聖バルトロマイ使徒
- 24日(土) 坂本進神父命日(2022年)
- 25日(日) 年間第21主日
- 28日(水) 橋口啓悟神父(聖アウグスチヌス)
- 28日(水) 鈴木康由神父霊名(聖アウグスチヌス)
- 30日(金) 山口重義神父命日(2016年)
- 30日(金) オーパーン神父命日(1988年)
- 30日(金) ペルリーニ神父命日(2008年)
- 【司教日程】5〜6日平和記念行事(広島)、10日大隅学園、11日ベトナムの聖母祭ミサ、15日キリスト教伝来記念祭、16日聖マリア学園、19日大隅学園、20日司祭評議会、22日聖マリア学園、25日鹿屋教会ミサ

祈りの意向

【祈祷の使徒会】 政治におけるリーダー 世界の平和



「短信」

▼青年の奉仕に感謝
垂水教会では7月14日(日)の午後、梅雨の晴れ間に垂水と鹿屋のベトナム人青年の力を借りて敷地の草刈り作業を行いました。
写真は今回作業したメンバーと垂水教会司祭館前で(右端は鹿屋教会のタム神父)。(垂水教会・霧島神父)

分かち合いを大切に集い続けて20年

みことばを祈る集いへの思い

5月に20周年を記念した「みことばを祈る集い」(フィリピニ・レナト神父指導)の参加者の思いを紹介する第2回目。

匿名 名(87歳)

レナト神父様のルカ福音書の講座から引き続きこの「みことばを祈る集い」に参加しています。

日常生活の中では、聖書を読み、深く味わい、黙想することはなかなかできませんが、この集いではそれができていますので、とても貴重な大切な時間となっています。

20年の継続は神父様のご指導とリーダーの方々のお世話のおかげと感謝いたします。

ただ、「人々のところに行って友だちになり、分かち合うことができていない」と反省しています。

匿名 名(76歳)

20年前から参加しています。「神様のことを知りたい。イエス様のことを知りたい」と強く願っていた受洗間もない頃、この集いに出会いました。

20年前は身辺がとても忙しい日々でしたので、日常を離れ聖堂で一定時間祈れることが本当に感謝のひと時でした。

現在、ひとりでも祈ることができず環境にあるにもかかわらず続けて参加しているのは、「分かち合い」の大切さに気づいたからだと思っています。同じ信仰を持つ仲間のかかわりに感謝しております。

匿名 名(81歳)

10年前からの参加になります。初めてこの集いに参加した頃は、ちよつと沈黙し、間をおいて祈りますので、「眠くて、眠くて困ったものだ」と思っていたのですが、安心して心地よい時間だったのを思い出します。それから教会ごとの当番で先唱などをするために、じっくりと読み、その内容を理解すること、こんな意味があつたのかと改めて「聖書をもっと読んでいなかっただけで、時間が経つとすべて忘れてしまう」ということの繰り返しをしながらでしたが、少しずつ自分のものになり、祈りの大切さを知るようになりました。

まだまだ本場の祈りができないのですが、「みことばを味わいましょう」の中に「みことばは自分にはほとんど分からない。まったく分からないと認める」の文に安心して、もつと少しでも理解できるよう、皆様

お詫びと訂正
先月号の匿名(93歳)のみことばを祈る集いの感想に間違いがありました。「つまり聖書を、聖書を置いて読み」は、正しくは「つまり聖書を聖霊において読み」でした。お詫びし訂正いたします。
広報部

分かち合いながら助け合っていたと思います。

匿名 名(77歳)

「みことばを祈る集い」に出会い、ちよつと10年になります。

静けさの中でみことばの朗読が始まり、耳を傾け、理解するように努めます。はじめは理解できずとも、何回も読むうちに理解が深まり、みことばを味わったように感じます。今ではみことばを読むことが祈りだと思っています。

そして参加者で感じた思いや心の動きを素直に、率直に分かち合う豊かな時を持つ仲間がいることは大きな喜びです。

この会に参加したこと、自分で、自分一人では決して得ることのできなかつた「みことばの意味」を知り、味わい、生きていくことは私の信仰生活を豊かにし、支えてくれるものと思えます。

別府 博(77歳)

私は4年前、ザビエル教会に転入し、20年前から続いている「みことばを祈る集い」の一員になれたことを嬉しく思っています。

「継続は力なり」と言います。この集いの継続自体が私たちの信仰にとって大きな力になっているに違いありません。

人間は弱い存在です。一人一人が何を20年も続けることは



要理

使徒たちの働きを礎として教会は生まれ、各地に広がりました。それはイエス様が御自分の救いの御業を

続けるために必要なことでした。

教会とはイエス様とその代理人によつて司牧される信者の団体です。

司牧とは司教や司祭が信徒を教導することです。カトリック教会の目に見えない頭はイエス様であり、目に見える頭はその代理人であるローマの司教：つまり教皇様です。私たちはその方を親しみを込めて「パパ様」と呼ぶこともあります。

この会に参加したこと、自分で、自分一人では決して得ることのできなかつた「みことばの意味」を知り、味わい、生きていくことは私の信仰生活を豊かにし、支えてくれるものと思えます。

「継続は力なり」と言います。この集いの継続自体が私たちの信仰にとって大きな力になっているに違いありません。

人間は弱い存在です。一人一人が何を20年も続けることは

なかなかできません。この集いがあればこそ、学び、気づき、活かされることが多々あり、私たち一人ひとりの信仰を強めてくれていると確信しています。

主日のミサにあずかることは、信者一人ひとりが主キリストにつながる、いわばキリストとの縦の関係です。しかし信者同士の横のつながりは、ミサにあずか



レナト神父と記念のミサをささげる

るだけでは希薄な気がしません。この集いでは聖霊の来臨を求め、みことばに耳を傾け、みことばを味わい、みことばに生きることを求めます。そのことのみことばに活かされる自分を見出し、生きていきます。

さらに分かち合いでは、各自がみことばに関する思いや体験を語り合い、相互に気づきを得て、より深い信仰に招かれています。

匿名 名(62歳)

3年前からの参加です。カトリックに改宗してから黙想会やミサの中で「○○について黙想してみてください」と神父様が指導されても、自分ではどうしたらいいのかはつきりと理解しイメージすることができずに過ごしていました。

この会に参加させていただき、皆様と月に一回ですが静けさの中でみことばを

共に味わい、祈り、相互に分かち合いをさせていただけで、より深くみことばに触れることができ、幸せを感じています。とても大切な時間です。聖書の言葉一つひとつを大切に思えるようになりました。

匿名 名(81歳)

みことばを祈る集いは、聖書を通して神のみことばに耳を傾け、さらに体験する大切な知識を増やすだけでなく、「みことば」を静かな気持ちで沈黙して、キリストに出会う喜びを味わう貴重な人生体験と思っております。

これは分かち合いなしでは体験することができません。分かち合いなしでの聖書の集いはないと確信しております。

今のパパ様の名前を知っていますか？
教会には一、聖、公、使徒継承の4つの特徴があります。カトリックの教会は唯一無二であり、聖なるものであり、すべての人に開かれた公のものであり、その教えは使徒の時代にまで遡る正統なものです。

使徒たちの働きと教会
使徒たちの働きを礎として教会は生まれ、各地に広がりました。それはイエス様が御自分の救いの御業を続けるために必要なことでした。

使徒たちの働きと教会

のです。使徒の時代に起源をもつのです。から彼等の後継者が現代にも存在しています。それは教皇様を頭とする司教団です。

カトリック教会は使徒から受け継いだ救いの真理を教えます。その「真理」と

は聖書と聖伝に基づくものです(2024年1月1日号参照)。教会は常に聖霊に導かれていることから、教会が教える救いの真理に誤りはありません。言い換えれば教会の教えとは全世界の司教団が一致し、教皇様がその権威をもって全教会に向けて教義を宣言するのです。から誤ることはできないのです。そもそも「教会の教えに間違いはない」というのも教義なのです。

イエス様の福音は神の国に集約されます。しかし未だに神の国はこの地上で実現していません。ということは神の国を実現するためにイエス様の教えを教会を通じて受け継いでいくことに信者である私たちの使命があると言えます。